

【緑地を楽しむ本】

## 『遊んで遊んで ーリンドグレーンの子ども時代ー』

クリスティーナ・ビヨルク 著 石井 登志子 訳  
岩波書店



「わたしたちが遊び死に  
しなかったのは、不思議な  
くらいでした」と、アストリッドは  
言っていたそうです。彼女の愉快で  
元気なお話の数々の原風景は、  
子ども時代の遊びに遊んだ体験です。

彼女は兄妹や友人たちと、私も羨ましくなるくらい様々な遊びを考え出し、夢中になりました。そして周囲にはある程度のことは大目に見てくれる大人たちがいました。物語にはそれらの実際に遊んだ事や出会った人たちがちりばめられています。

彼女は「いちばん心をとらえるものは自然だ」と語っていたそうです。彼女が育った環境には牧場や草原、木登りのできる木々、水浴びをする川や湖、そして大きな森がありました。

子どもたちが頭を働かせて、夢中になって遊べる環境がほしいですね。

(齋藤好子)